

第6章

自然・歴史・文化と人が交わり 元気に輝くまちづくり

観光・文化

1節 自然・歴史・文化等の多様な魅力を活かした観光の振興を推進します

1. 観光客を呼び込むための環境の整備
2. 地域の魅力の発信
3. 広域的な観光の推進

2節 白山文化・白山ブランドの確立と魅力を発信します

1. 品格と文化が感じられるまちの形成
2. 自然や歴史のブランド力の向上

3節 国内外の多様な交流と賑わいを推進します

1. 国内・国際交流の推進と多文化共生の推進

6-1-1 観光客を呼び込むための環境の整備

現状・課題

■ 本市には、国立公園に指定されている白山をはじめ、白山比咩神社や白峰重要伝統的建造物群保存地区の街並み、数多くの温泉など、魅力的な観光地に加え、特産品や伝統工芸なども数多くあります。

これらの地域資源を活用した観光誘客のため、白山市観光連盟が中心となり、市内の観光資源の情報を収集し、誘客に向けた効果的な情報を発信する機能の充実を図ることが必要です。

■ 本市が有する地域資源にさらなる磨きをかけ、積極的なシティプロモーションの推進による観光振興を図るためには、観光に関わる人材の育成と確保が欠かせません。

このため、地域の魅力を伝える人材や観光をプロデュースする担い手の育成が求められます。

■ 多くの観光客を呼び込み、地域の活性化を図るためには、道の駅やスキー場、温泉施設などの交流拠点となる観光施設やその周辺の整備・充実を図るとともに、交通の拠点から離れたところにある観光地へ観光客を適切に誘導するなど、観光拠点の充実やネットワーク化を推進することが求められます。



白峰重要伝統的建造物群保存地区

基本的方向

1. プラットホーム機能の充実

市内の観光資源を調査・整理し、効果的に情報を発信する機能（プラットフォーム機能）を持つ白山市観光連盟と協働して、着地型旅行商品の開発・販売などを行うほか、観光情報センターを運営し、観光客の誘客や市内の特産品を利用した観光地の活性化を図ります。

2. 人材の育成と確保

観光客が楽しく市内の観光地を観光できるよう、案内の知識や技術を持った観光ガイドの育成を図るほか、観光地の環境整備に必要な観光プロデューサーの育成に努めます。

3. 観光拠点の充実

誘客力の向上に向け、本市が有するスキー場や温泉施設、海水浴場などの観光拠点について、利用状況やニーズを勘案しながら整備・拡充を図るとともに、鉄道総合車両所等を活用した、ものづくりの心にふれ、学び、体験する「産業観光」のまちづくりに取り組みます。

また、白山国立公園、白山白川郷ホワイトロード、白峰重要伝統的建造物群保存地区、白山比咩神社などの観光拠点についても周辺の整備や活用を進めるとともに、観光客を適切に誘導するため、道の駅での情報発信や観光サインの計画的な設置のほか、観光拠点までの交通の確保などに取り組みます。

さらに、自然や農林水産業、伝統芸能等の活性化に向け、体験型・交流型の要素を取り入れた旅行形態の充実を図ります。

施策の展開

基本的方向	施策の概要（★印は重点項目）	実施時期		実施主体
		前期	後期	
1. プラットホーム機能の充実	★ 観光連盟の機能の充実	→	→	観光連盟
	観光情報センターの運営	→	→	市、観光連盟
2. 人材の育成と確保	★ 観光ガイドの育成	→	→	市、観光連盟
	観光プロデューサーの育成	→	→	市、観光連盟
3. 観光拠点の充実	★ 産業観光の拠点充実	→	→	市、国、県、事業者
	★ 地域の特性の活用	→	→	市、市民
	滞在型施設の充実	→	→	市、市民
	道の駅の活用	→	→	市、市民
	観光サインの計画的設置	→	→	市
	観光拠点への交通の確保	→	→	市
	観光施設の整備	→	→	市
	★ スキー場施設の整備	→	→	市、指定管理者
温泉施設の整備	→	→	市、事業者	

市民協働に向けて

- 観光拠点の魅力を観光客に伝える観光ガイドや、観光まちづくりを進める地域や地域間の連携を図る観光プロデューサーの育成・活用を支援します。
- 観光拠点を持つ地域住民と協働し、地域の魅力向上を図るとともに、地元企業との連携により観光拠点のPR、市内特産品の販売等を行います。

目標指標

指 標	単位	現況値	目標値		備 考
		(年度)	2021年度 (H33)	2026年度 (H38)	
観光連盟ホームページへのアクセス数	件/年	91,718 (H27)	103,000	114,000	
観光情報センターの利用者数	人/年	5,225 (H27)	5,400	5,600	
白峰特急便の利用者数	人/年	122 (H27)	140	160	
スキー場利用者数	人/年	142,910 (H25-27平均)	159,000	172,000	

6-1-2 地域の魅力の発信

現状・課題

■ 本市は、北陸新幹線と在来線の2種類の総合車両所が立地する全国で唯一の都市であるほか、北陸鉄道の車両工場も立地しています。

この特性を活かして「鉄道のまち」づくりを進めるとともに、観光資源としての活用が求められています。

また、白山については、平成29年の開山1300年を機に、さらなる魅力発信や知名度の向上が必要です。

■ 本市には日本三名山の一つである白山をはじめ、スキー場や温泉、白山比咩神社などの神社仏閣、白峰重要伝統的建造物群保存地区といった観光拠点のほか、白山菊酒やふぐの卵巣の糠漬をはじめとした発酵食品、祭りなどの地域の伝統・文化等、多くの観光資源が存在しています。

市民にとっては身近な自然環境や風景であっても、来訪者にとっては新鮮で魅力的なものに感じられることもあります。

今後、新しい観光資源の掘り起しやさらなる魅力向上を図る必要があります。

また、北陸新幹線金沢開業による首都圏からの誘客を図るため、金沢市など近隣自治体と連携した観光商品の開発が求められます。

■ 本市では、美川のおかえり祭り、鶴来のほうらい祭り、鳥越の一向一揆まつり、白峰の雪だるままつりなど、地域の伝統的な祭りや個性豊かなイベントがあり、毎年多くの来訪者で賑わいを見せています。

今後は、交流人口の拡大を図るため、これら誘客性の高い祭りやイベントへの支援、PR促進が必要です。

基本的方向

1. 白山・鉄道などの魅力の発信

本市のシンボルである白山の魅力を全国に発信するため、ウォーキングや登山を推奨するとともに、体験型のイベント等を実施します。

また、北陸新幹線と在来線の総合車両所やローカル鉄道の終着駅を有する「鉄道のまち」として、鉄道愛好者のみならず一般客へも知名度の向上を図るため、鉄道事業者による総合車両所の見学、一般公開などのイベントを支援します。

2. 観光商品の開発と発信

観光拠点の魅力を高めるため、宿泊を含む旅行商品や地元食材、特産品など観光客に向けた商品の販売に向けて、行政と企業が連携し、新たな特産品や既存商品の活用方法の検討を行います。

また、近隣自治体の観光地と連携した観光商品の開発促進により、相乗効果を引き出し、本市及び周辺地域の誘客の促進を図ります。

3. 地域の祭り・イベントの支援

観光資源としての伝統的祭りや本市をPRするための地域イベント等を支援し、交流人口拡大による地域の活性化を図ります。



白山総合車両所一般公開

施策の展開

基本的方向	施策の概要（★印は重点項目）	実施時期		実施主体
		前期	後期	
1. 白山・鉄道などの魅力の発信	★ 白山の魅力の発信	→	→	市
	★ 鉄道のまちの発信	→	→	市、運行事業者
2. 観光商品の開発と発信	★ 着地型旅行商品の開発	→	→	観光連盟
	近隣自治体と連携した観光商品の開発	→	→	市、観光連盟
	★ 広域圏での観光商品の開発	→	→	市、観光連盟
	多様なツアーメニューの提案	→	→	市、観光連盟
	特産品の市内外への情報発信	→	→	市、観光連盟
	発酵食品等食の魅力の市内外への情報発信	→	→	市、観光連盟
3. 地域の祭り・イベントの支援	観光誘客性の高い祭りへの支援	→	→	市、市民、観光連盟
	観光誘客性の高いイベントへの支援	→	→	市、市民、観光連盟

市民協働に向けて

- J R西日本金沢総合車両所松任本所及び白山総合車両所、北陸鉄道車両工場のイベントへ各種団体が参画できるように運行事業者へ働きかけます。
- 地域住民が観光素材として、魅力の向上を図るものについて、旅行（観光）商品としての販売を促進します。
- 観光資源としての質の向上を図るため、地域が行う祭りやイベントへ支援するほか、企業との連携により、特産品や食品等（観光商品）のブランド力向上に向けた取り組みを展開します。また、ニューツーリズム等多様なツアーの拠点を目指す地域を支援します。

目標指標

指 標	単 位	現況値	目標値		備 考
		(年度)	2021年度 (H33)	2026年度 (H38)	
白山登山者数	人/年	49,997 (H27)	52,000	54,000	
宿泊客数	人/年	247,074 (H27)	259,000	269,000	
着地型旅行商品*の販売数	人/年	1,283 (H27)	1,700	2,100	
イベントの入込客数	人/年	309,623 (H27)	324,000	337,000	

*着地型旅行商品：旅行者を受け入れる地域で作られる旅行商品

6-1-3 広域的な観光の推進

現状・課題

■ 白山を囲む石川県、岐阜県、福井県の関係自治体で、環白山広域観光推進協議会を組織し、白山白川郷ホワイトロードを活用した観光ルートのPRに取り組んでいます。

また、本市周辺自治体では、北陸新幹線の開業効果や小松空港からの入り込みを共有する地域であることから、加賀地域連携会議（オール加賀会議）を組織し、連携して加賀地域への誘客を図っています。

これらの取り組みを踏まえ、本市の魅力的な観光資源と城下町金沢、世界遺産白川郷、加賀温泉郷など周辺自治体を持つ観光資源を合わせ、広域的な滞在型観光による観光誘客に取り組む必要があります。

■ 平成27年3月の北陸新幹線（長野・金沢間）開業に伴い、石川県内の観光客数は急増しており、本市にもその波及効果が及んでいます。

今後は、北陸新幹線の敦賀延伸や全線開通を見据えた関西圏、中部圏からの誘客が求められています。

■ 平成32年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会による外国人観光客の増加が見込まれています。

そのため、外国人の誘客に向け、多言語での情報発信や受け入れの環境を整備するとともに、インバウンド事業のさらなる推進や外国人が利用しやすい観光施設・宿泊施設への対応が求められています。

基本的方向

1. 環白山・加賀地域など広域観光の推進

環白山・加賀地域などの自治体と連携したイベントの開催等により、地域への誘客を促進します。

また、近隣自治体と連携した観光プランによる誘客を図るほか、周遊ルートの作成など旅行商品の開発を推進します。

2. 北陸新幹線延伸に向けた広域的な誘客の促進

北陸新幹線敦賀延伸や全線開通を見据え、関西圏、中部圏などからの誘客の促進を図ります。

3. 海外誘客の促進

インバウンド事業を促進し、観光サインの多言語化や食文化の違いへの配慮など外国人の目線に立った受け入れ環境の整備を図ります。

また、本市の観光資源とその魅力について、多言語での情報発信を推進するとともに、受け入れ側のおもてなし力の向上など外国人が訪れやすく、滞在しやすい環境の整備を推進します。

さらに、小松空港・金沢港や北陸新幹線を利用する外国人観光客の誘客を推進します。



外国人観光客

施策の展開

基本的方向	施策の概要（★印は重点項目）	実施時期		実施主体
		前期	後期	
1. 環白山・加賀地域など 広域観光の推進	環白山広域観光推進協議会を活用した誘客活動の実施	→	→	市、関係自治体
	オール加賀会議と連携した広域観光事業の実施	→	→	市、関係自治体
	★近隣自治体との連携した事業の実施	→	→	市、関係自治体
2. 北陸新幹線延伸に向けた 広域的な誘客の促進	関東圏からの誘客の促進	→	→	市、観光連盟
	★関西圏・中部圏からの誘客の強化	→	→	市、観光連盟
3. 海外誘客の促進	★インバウンド事業の推進	→	→	市、観光連盟、 国際交流協会、事業者
	小松空港・金沢港や北陸新幹線を利用した誘客の促進	→	→	市、観光連盟

市民協働に向けて

- 外国人観光客受入のためのセミナーを宿泊・観光事業者などに対して広報し、参加を呼びかけます。
- 本市の魅力を多言語で紹介する市民ボランティアの育成に努めます。

目標指標

指 標	単位	現況値	目標値		備 考
		(年度)	2021年度 (H33)	2026年度 (H38)	
白山白川郷 100kmウルトラマラソン 参加者数	人/年	1,759 (H28)	2,000	2,300	
白山白川郷ホワイトロード 利用者数	人/年	266,195 (H27)	282,000	296,000	



白山白川郷 100kmウルトラマラソン



北陸新幹線

6-2-1 品格と文化が感じられるまちの形成

現状・課題

■ 平成28年3月に制定した白山市文化振興条例には、文化は社会的な財産であり、文化の振興を市の政策の根幹のひとつに据えると明文化しました。

今後は、この条例の理念を体現するため、市民と行政の協働による幅広い文化活動の展開が求められています。

■ 本市は、江戸時代の女流俳人加賀の千代女をはじめ、七ヶ用水の父枝権兵衛、近代精神文化界に大きな影響を与えた暁烏敏、大正文学の奇才島田清次郎、日本刀制作の人間国宝隅谷正峯など数多くの偉人を輩出したほか、日本地質学発祥の地桑島化石壁発見者であるライン博士や日本洋画壇の巨匠中川一政などの文化人と深いつながりがあります。

今後は、ふるさとの文化に親しむ機会の充実を図り、先人が残してきた歴史的遺産や伝統文化を継承することが求められています。

■ 本市には、国・県・市指定文化財が394件（平成28年12月現在）あり、いずれも地域の自然、文化、歴史に根ざし、形作られ、評価されてきたものです。

今後も、これらを保存・継承するとともに、市民が文化財に親しむことができる環境を整備し、文化財愛護思想の啓発と郷土愛の醸成を図ることが求められています。

また本市では、文化財の保存・継承につながる市民の活動に対し、必要な支援を行ってきました。今後も、これら文化財を末永く保存・継承するとともに、新たな価値が見いだされる文化財については、学術的な調査を実施し、その価値を明らかにする必要があります。

文化財は、保存・継承するだけでなく、地域の活性化につながる活用の視点も大切であり、今後は観光施策との連携も重要になってきています。

基本的方向

1. 文化の創造と推進

音楽や芸術作品を鑑賞する機会の拡充や市民参加型の施策を展開することにより、幅広い文化芸術活動を推進します。

また、郷土に根ざした歴史文化や芸術文化を発信するため、文化施設の充実と活性化を図ります。

2. 文化の継承と発展

郷土への理解を深め、地域の文化を継承するため、ふるさとの文化に親しむ機会の充実を図ります。

また、有意な人材の輩出に寄与するため、本市の先達の功績を顕彰する事業の実施を推進します。

3. 歴史遺産や伝統文化の保護・継承

これまで受け継がれてきた指定文化財の所有者や保存団体等への支援を継続し、将来へ継承することで郷土愛の醸成を図ります。

また、郷土の歴史を学ぶ場として、横江荘遺跡などの史跡の整備、活用を推進するほか、白峰重要伝統的建造物群保存地区においては、引き続き保存や整備の取り組みを支援し、地域の活性化につながる活用を図ります。

あわせて、地域に埋もれている文化財について、その価値を明らかにする調査を進め、その保存・継承を図ります。

さらに、これらの施策を通して、誰もが文化財に親しむことができる環境を整備し、文化財愛護思想の啓発を図ります。

施策の展開

基本的方向	施策の概要（★印は重点項目）	実施時期		実施主体
		前期	後期	
1. 文化の創造と推進	★文化活動の推進	■■■■■	■■■■■	市、市民
	文化施設の充実と活性化	■■■■■	■■■■■	市
2. 文化の継承と発展	ふるさと文化の啓蒙継承	■■■■■	■■■■■	市、市民
	先達の顕彰事業の推進	■■■■■	■■■■■	市
3. 歴史遺産や伝統文化の保護・継承	文化財所有者・保存団体への支援	■■■■■	■■■■■	市
	民俗文化財の保存・継承	■■■■■	■■■■■	市民
	★史跡の整備と活用	■■■■■	■■■■■	市
	伝統的建造物群保存地区の整備と活用	■■■■■	■■■■■	市、市民
	文化財調査の推進と調査体制の充実	■■■■■	■■■■■	市
	化石調査の推進と調査体制の充実	■■■■■	■■■■■	市
	文化財愛護活動の推進	■■■■■	■■■■■	市

市民協働に向けて

- 郷土に根ざした歴史文化や芸術文化を発信するため、文化施設の展示内容やイベント等の質を向上させ、市民が身近に文化と接する機会を拡充するとともに、市民による文化活動を推進します。
- 市民参加型の幅広い文化財愛護活動を推進するため、学術的な調査研究、史跡等の保存整備を推進するとともに、文化財愛護の啓発と郷土愛の醸成を図る機会を充実します。

目標指標

指 標	単位	現況値	目標値		備 考
		(年度)	2021年度 (H33)	2026年度 (H38)	
文化財市民講座・史跡巡り参加者数	人/年	172 (H27)	250	350	
音楽祭の総入場者数	人/年	5,648 (H27)	5,800	6,000	メインイベント、協賛事業の合計
現代美術展白山展の入場者数	人/年	1,537 (H27)	1,700	1,900	
暁烏敏賞の応募作品数	点	42 (H27)	50	60	
白山市ジュニア文芸賞の応募作品数	点	2,375 (H27)	2,400	2,500	
文化施設*の入館者数	人/年	104,344 (H27)	105,000	107,000	
市民工房うるわし・松任安楽庵の利用者数	人/年	147,612 (H27)	148,000	150,000	
白山新能の入場者数	人/年	480 (H27)	490	500	
ライン賞の応募作品数	点	10 (H27)	20	25	

*文化施設：市内の文化施設7施設と白山恐竜パーク白峰

6-2-2 自然や歴史のブランド力の向上

現状・課題

■ 白山と周辺地域の世界文化遺産登録への取り組みは、国内暫定リストへの追加記載を目指し、提案書を提出しましたが、主題の再整理、構成資産の組み換え、さらなる比較研究等が必要との評価を受けたことから、共同提案した自治体と連携し、主題や構成資産について検討する必要があります。

また、市内全域をエリアとする白山手取川ジオパークは、平成23年9月に日本ジオパークの認定を受けました。ジオパークの推進には市民と一体となった活動の積み重ねが重要であり、資源の保護・保全、教育・研究、ツーリズムによる地域振興等の継続した活動が求められるほか、ユネスコ世界ジオパークの認定に向けては、さらなる情報発信やガイド育成等の取り組みの強化が必要です。

さらに、白山ユネスコエコパークは、白山を取り巻く4県7市村の環白山地域をエリアとして昭和55年に登録され、平成28年3月に拡張登録が承認されました。10年ごとに定期報告が必要であり、ユネスコエコパークの掲げる3つの機能（保護機能、学術的研究支援、経済と社会の発展）を果たすために、構成する環白山地域との連携のもと、持続可能な活動の推進が必要となっています。

■ 本市ではこれまで、白山温泉郷や白山菊酒などの重要な観光資源のブランド化を進め、観光客の誘客に取り組んできました。

今後、引き続き本市特有の自然や文化などの観光資源について、さらに魅力を発掘しつつ、ブランド力の向上を図り、他との差別化による誘客力の向上を目指すことが重要です。

基本的方向

1. 世界に向けた活動の推進

ジオパークをツールとして、自然資源や地域遺産の保護・保全、ツーリズムの基盤づくり、教育・科学の普及などの取り組みを推進する一方、ふるさと学習を通して私たちの地域の魅力アップに努めます。

そして、ユネスコの正式プログラムとなったユネスコ世界ジオパークの認定を目指していきます。

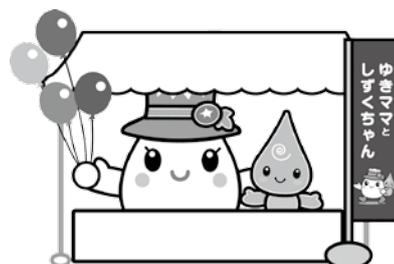
また、ユネスコエコパークの継続的な普及啓発活動に努めるとともに、白山の自然や文化を伝える取り組みや活動への支援及び管理運営計画の策定を促進し、環白山地域のさらなる連携を深めていきます。

世界文化遺産登録においては、厳しい評価の現状のなか、これらの活動の積み重ねにより、その道筋を見極めていきます。

2. 観光資源のブランド力の向上

自然や歴史遺産をはじめ、観光拠点のブランド化に向け、各種関係団体の連携を深め、地域ぐるみの活動を盛り上げるとともに、官民が連携して観光のPR活動を展開します。

特産品や地元食品等を販売する事業者と連携し、観光拠点内での販売、観光PR会場での販売等を行い、ブランド力の向上を図ります。



白山手取川ジオパークイメージキャラクター
ゆきママとしずくちゃん

施策の展開

基本的方向	施策の概要（★印は重点項目）	実施時期		実施主体
		前期	後期	
1. 世界に向けた活動の推進	★ 白山手取川ジオパークの活動の推進	→	→	市、市民、推進協議会
	★ 白山ユネスコエコパーク活動の推進	→	→	市、市民、協議会
2. 観光資源のブランド力の向上	特産品のブランド力の向上	→	→	市、市民
	★ 観光拠点のブランド力の向上	→	→	市、市民
	食文化のブランド力の向上	→	→	市、市民

市民協働に向けて

- 各種関係団体の連携を深め、地域ぐるみの活動を盛り上げ、国指定（登録）文化財数の増加や白山手取川ジオパーク、白山ユネスコエコパークの活動を推進し、自然や歴史遺産のブランド化を目指します。
- 特産品、地元食品等を販売する事業者と連携し、観光拠点内での販売、観光PR会場での販売等を行いブランド力の向上と本市の観光のPRを協働で進めます。

目標指標

指標	単位	現況値	目標値		備考
		(年度)	2021年度 (H33)	2026年度 (H38)	
国指定文化財の数	件/年	25 (H27)	27	28	
認定ジオガイド数	人	—	5	10	



白山手取川ジオパーク体験・実感ツアー



観光PR会場

6-3-1 国内・国際交流の推進と多文化共生の推進

現状・課題

- 本市は、国内1都市、海外5都市と親善友好都市（姉妹都市、友好都市等の総称）を提携し、地域特性を活かした交流を行ってきました。
今後は、市民が友好都市をより身近に感じることができるよう、交流内容の充実を図る必要があります。
- 親善友好都市のうち、海外の3都市とは中高生のホームステイ交流事業を通して、青少年のグローバル人材の育成を図っています。また、これら親善友好都市やその他海外からの来訪者、出身者に対し、本市の文化や歴史、自然などの魅力を積極的に発信しています。
しかし、親善友好都市との交流プログラムに参加・参画する市民が限られているため、今後は、新たな交流事業を展開し、交流のすそ野を拡大する必要があります。
- 市内の外国人住民の増加に伴い、外国人住民が住みやすい地域づくり、多文化共生の重要性はますます高まっています。
また、平成32年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催をはじめ、海外からの交流人口が拡大すると予想される中、外国人に優しいまちづくりに積極的に取り組む必要があります。
- グローバル社会や多文化共生社会の実現に向けては、白山市国際交流協会の「国際交流サロン」が拠点施設として重要であり、さらなる支援や体制強化が必要です。
また、活動のほとんどをボランティアに依存しており、ボランティアの高齢化等に伴う担い手確保が大きな課題となっています。

基本的方向

1. 友好交流の推進

国内外の6つの親善友好都市をはじめ、世界の各地域との交流やネットワークを活用し、友好交流を推進するとともに、本市の文化や魅力を広く海外へ発信します。

2. グローバル化に対応する人材育成と活用

親善友好都市との青少年ホームステイ交流の推進や海外への青少年の派遣、国際協力に携わる若者を支援し、地域の国際化を担う人材育成を促進します。

また、市民対象の国際理解や異文化理解のための講座や外国人と交流する機会を通して、市民のグローバル化へ対応した意識の涵養を図り、その人材を活用します。

3. 多文化共生の推進

外国人住民の日常生活にかかる様々な悩みや心配事に関する各種相談や日本語教室などのコミュニケーション支援を充実します。

また、外国人住民の地域参画を推進し、多文化共生社会を推進します。

4. 国際交流組織の機能充実と連携強化

本市の国際交流の中核を担う白山市国際交流協会への支援を行うとともに、同協会とその他の民間国際交流団体との連携強化を促進します。

また、幅広くボランティア人材の登録・育成、活用促進により、多様な交流事業を展開します。

施策の展開

基本的方向	施策の概要（★印は重点項目）	実施時期		実施主体
		前期	後期	
1. 友好交流の推進	親善友好都市との友好推進	→	→	市、国際交流協会
	友好交流地域との交流促進	→	→	国際交流協会、関係団体
	★ 海外への情報発信	→	→	市、国際交流協会
2. グローバル化に対応する人材育成と活用	親善友好都市との青少年ホームステイ交流	→	→	市、国際交流協会
	青少年の海外派遣促進	→	→	ロータリークラブ
	国際協力の促進	→	→	JICA
	★ 市民のグローバル化への対応	→	→	市、国際交流協会
	国際交流人材の活用	→	→	国際交流協会
3. 多文化共生の推進	外国人住民の相談・コミュニケーション支援	→	→	市、国際交流協会
	★ 外国人住民の地域参画の推進	→	→	市、国際交流協会
	多文化共生への理解促進	→	→	市、市民、国際交流協会
4. 国際交流組織の機能充実と連携強化	★ 国際交流協会の体制強化	→	→	市、国際交流協会
	協会ボランティアの育成と拡大	→	→	市、国際交流協会
	多様な交流事業の実施	→	→	国際交流協会
	民間国際交流団体との情報交換と連携	→	→	市、国際交流協会

市民協働に向けて

- 白山市国際交流協会への市民参画の機会を充実し、市民への情報提供及び事業の協働を図っていきます。

目標指標

指 標	単 位	現況値	目標値		備 考
		(年度)	2021年度 (H33)	2026年度 (H38)	
国内・国際交流人口	人/年	950 (H27)	970	1,000	親善友好都市等との往来数、 ジャパンテント等国際交流 人口
白山市国際交流協会会員数	人・団体/年	406 (H27)	420	430	普通会員、特別会員の合計
白山市国際交流サロン利用人数	人	88,233 (H27)	125,000	156,000	累計

